令和７年度　東京都立武蔵高等学校・附属中学校　学校経営計画

令和７年４月１日

校長　堀江　敏彦

目指す学校	「向上進取の精神」のもと、地球規模の課題を「自分ごと化」していく武蔵独自の探究活動である「地球学」を軸とし、中高６年間の一貫性をもった体系的なキャリア教育を通して、豊かな知性と感性を育て、健康な心と体を養い、一人一人の高い進路目標を確立し、実現することで、「国際社会に貢献する知性豊かなリーダー」を育成します。	（１）豊かな知性と感性をもち、地球規模で活躍できる国際人を育成する学校 （２）健康な身体と自らを律する強い精神力を育成する学校 （３）体系的なキャリア教育を通して一人一人の高い進路目標を確立し、実現させる学校
中期的目標と方策	中高一貫教育及び生徒の進学希望に対応し、中学校入学からの６年間を見通した体系的・効果的な教育課程を編成・実施する。	（１）教養教育の一層の充実と国際的なリーダー養成を目指した教育課程の改善・充実 （２）中高の全教育活動における体系的なキャリア教育を通した進学指導の一層の充実 （３）中高が共に充実して取り組める学校行事を主体的に企画・運営できる生徒の育成 （４）安全かつ効果的な教育活動を展開するための施設・設備の改善・充実

今年度の取り組み目標と方策	**①〔学習指導関係〕** ア　６年間で生徒が体系的かつ効果的な学習を行えるよう、各教科・科目において「中高一貫シラバス」に基づく年間授業計画を４月に策定し、週ごとの指導計画に具体化して計画的に授業を展開する。 イ　生徒が高い学力と豊かな教養を身に付けられるよう、主体的・対話的で深い学びを推奨し、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ウ　中高の各学年において、過半の生徒が教科の目標に照らして「十分満足できる」水準以上となるよう、「学習ポートフォリオ」による補充・発展の学習など、学習評価と一体化した指導を行い、基礎・基本の徹底と発展的な学習内容の定着を図る。そのため、校内外の指導教諭の活用や教員相互の授業参観等による授業改善を進める。 エ　生徒の苦手教科の克服や学習内容の定着、一層の学力向上に資するため、放課後等の個別指導や長期休業日における講習を組織的に実施する。また、学習方法の確立を目指す「スプリングセミナー」（高校１年）、大学進学に向けた「ウインターセミナー」（高校２年）、「共通テストマラソン」及び共通テスト前後の「特別授業」（高校３年）などを実施する。 オ　持続可能な開発目標（SDGs）に関連した課題解決に必要な創造的・論理的思考力育成のため、生徒自ら課題として考え、解決するための能力や態度の育成を図り、探究活動「地球学」を軸に、各教科の特性に応じて各教科等の関連付けを図った教育課程の編成等に、教科等横断的な視点で取り組む。 カ　GIGA スクール端末、一人一台端末の導入により、授業等におけるより一層のデジタル技術の活用を図り、学習環境及びデジタル環境等を整える。 キ　「使える英語力」伸長のため、４技能の伸長に重点を置いた指導等を実施するとともに、ＧＥ－ＮＥＴ　ＥＥ指定校として、海外との積極的な交流を通じて国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成を推進する。また、東京サイエンスハイスクール指定校として理数教育の一層の充実を図る。	**②〔進路指導関係〕** ア　生徒に、キャリア教育における各能力（基礎的・汎用的能力）を育成するため、６年間の「キャリア教育全体計画」を策定し、全教育活動において実施する。その一環として中学校では職場体験、中高接続部分では上級学校訪問、高校では進路講演会等の一層の充実を図る。また、高校生には、志望大学や学部に応じた講習等の支援体制を整備して、総合的にキャリアプランニング能力を育成する。 イ　生徒が自己の特性や国際貢献を意識し、自己の進路目標を早期に確立できるよう、６年間の体系的な進路面談計画を策定して実施する。生徒が、中学生の「キャリアデザイン・学級活動ノート」、「Learning Diary」や、高校生の「キャリアパスポート」を活用することにより主体的に進路選択ができるよう促す。これらの記録は、高校段階での科目選択や志望大学選定等に活用する。 ウ　模試分析会や教科主任会を中心に、経年変化の数値分析等を活用し生徒の学力状況や進路希望情報を共有する。 エ　志望校検討会等を通して、学力や進路志望の分析、個々の進路目標の具体化と実現を図る。	**③〔生活指導関係〕** ア　生徒に規範意識及び主体的積極的な学習態度を確立するため、学級活動及びホームルーム活動等における基本的生活習慣の指導及び授業規律の一層の徹底を図る。 イ　自他の生命を大切にする心を養うとともに、いじめのない豊かな人間関係づくりや社会貢献意識の涵養など、道徳心と道徳実践力を育成するため、中学校における道徳の授業及び地区公開講座や高校における社会貢献活動等の充実を図るなど、全教育活動を通した道徳教育に取り組む。 ウ　盗難防止、交通ルール・情報モラル遵守、薬物濫用防止等の指導の徹底を図るため、セーフティ教室や学級・学年での指導を中高ともに年間３回以上実施する。 エ　生徒に、キャリア教育の各能力を育成するため、音楽祭、体育祭、文化祭及び各学年での行事等における委員会活動に対して、生徒が行事を主体的に企画・運営できるよう適時適切に指導・助言を行う。 オ　健康な心と体を育むため、体罰根絶の全都的な取組の下、時間厳守等のけじめのある部活動を実施し学習と部活動を両立させるとともに、体力テスト等を活用して基礎体力の向上を図る。 カ　部活動のより一層の充実を目指し、特に中学校で部活動数の適正化を図るとともに、中学・高校において部活動の活動時間並びに休養日を適切に設定する。	**④〔保健、美化指導関係〕** ア　生徒の安全・健康のため、施設・設備の定期点検や破損箇所の早期修繕等を徹底するとともに、大地震、火災や緊急状況等に対応した訓練を実施する。また、養護教諭や栄養士と連携し、給食指導における食育を推進する。 イ　教育相談の充実のため、特別支援教育コーディネーター及び関係学年、スクールカウンセラーや養護教諭等とのケース会議及び拡大学年会、生徒・保護者対象の講演会及び発達障害等に関する教員研修等を実施する。また、特別な支援を必要とする生徒に対しては、学校生活支援シートを作成し、合理的配慮の観点に基づき支援を実施する。 ウ　日常の清掃に加えて、環境教育の一環として節電・節水やゴミの減量・省資源化等の徹底を図る。 エ　感染症予防対策を継続して、保健指導等を行う。 **⑤〔募集・広報活動関係〕** ア　学校説明会・見学会等の募集活動のより一層の工夫・改善を図る。 イ　学校ホームページの有効活用による発信力の向上を図る。	**⑥〔学校経営・組織体制関係〕** ア　企画調整会議と分掌・学年との双方向性を高め、全教職員の情報共有や経営参画を進める。 イ　すべての校務分掌が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年間総括を実施する。 ウ　正副主任を中心に、基本方針の策定・企画は担当分掌、具体化と実施は学年や教科が担当する体制を構築し、業務の均等化と複数担当化を図るとともに、効率的な業務遂行に向けシステム化・マニュアル化・スリム化を進め、教職員一人一人のライフ・ワークバランスの実現を図る。 エ　校内外の異常や危険箇所、防犯・防災等に全教職員が常に留意し、地域と連携し生徒の安全・健康を確保する。 オ　学習環境の向上のため、施設・設備の更新や設置を計画的に行うとともに、教材・教具の調達や外部講師の謝金等の予算を迅速かつ適正に執行する。 カ　文書管理・発行や電話・窓口対応等は個人情報に十分留意し、確実に行う。 キ　広く地域に開かれた学校とする。 ク　本校での学習に適合できる確かな学力と適性を有する生徒が入学できるよう、中学校の適性検査問題を他の都立中高一貫教育校と連携して適切に作成し、募集から入学手続までを適正に実施する。	
重点目標と方策	①「学力向上推進プラン」に基づく授業改善や指導と評価の一体化により、学力の向上を図り、中学校では「学力推移調査」を行い、高校生同様に学年・教科担当を中心に分析会を行い、中学３年生の３教科の偏差値平均を 64 以上とする。高校では大学入学共通テスト 6-8(9)型受験者を 85%以上とし、現役の合格者数を難関国立大学等(東京大学、京都大学、一橋大学、東京工業大学、国公立大学医学部)は 20 名以上、国公立合計 50 名以上、難関私立大学(早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学、東京理科大)はのべ 80 名以上とする。中学３年生までに英検２級取得 30%を目指す。理数系コンテストへの参加を奨励する。	②キャリア教育を充実させ、進路面談を２回以上実施して、中学校３年生での進路目標及び高校２年生での志望大学・学部等の決定率を 95%以上とする。「学力向上推進プラン」に基づき、各教科・科目の指導内容・方法を工夫し、学校評価における生徒の授業満足度の肯定的回答を中高平均して 85%以上とする。 「国際社会に貢献できる知性豊かなリーダー」を育成するため、中学校での「地球学」(50 時間)及び「キャリアの時間」(20 時間)、高校での「人間と社会」(35 時間)及び「キャリアデザイン」(35 時間)を体系的に実施して創造的・論理的思考力の育成を図る。	③中学での道徳教育充実及び公庫での社会貢献活動充実を図る。年間で中学での安全教室 11 回、高校でのセーフティ教室３回実施する。	④避難訓練を中高合計 15 回以上実施する。ケース会議及び拡大学年会を学期に２回、生徒・保護者対象の講演会及び発達障害等に関する教員研修などを合計５回以上実施する。年間 11 回の「美化デー」を設定し環境美化に努める。	⑤学校見学会・説明会等の 15 回以上の実施やホームページ計 100 万アクセスを目指した広報活動の充実により、応募倍率を中学校 3.0 倍以上とする。	⑥情報セキュリティ等職務課題に関する研修を年間５回程度実施する。ＯＪＴを推進し教職員の資質・能力の向上を図り服務事故を防止する。必要に応じた時差勤務・在宅勤務を奨励する。